

健康よもやま話 ㊸



姫野病院：松浦 緑郎 (健康管理士一般指導員)

●インフルエンザ

かぜ症候群は普通感冒とインフルエンザの二つのタイプに大きく分けられます。このうち普通感冒は、鼻や喉などの症状が中心で、熱が出てあまり高くなりません。...



これより一段と症状が激しいのがインフルエンザで、いきなり38～40度近い高熱が出て頭痛とともに、腰、筋肉、関節などが痛み、全身がだるくなります。...

このインフルエンザは、さまざまなインフルエンザウイルスによっておきてきますが、流行的に発生するのが特徴です。ただ、基礎体力があるとウイルスに感染してもそう簡単には発病しないし、たとえ発病しても安静にして水分をしっかりと補給していれば、4、5日もすれば症状も和らいできます。...

このインフルエンザに対してはワクチンができています。年によってウイルスの型が違うので、すべてが効くというわけではありませんが、ウイルスの型が適合すれば感染しても症状は軽くて済みます。...



旅と酒

遠い地へ旅する時も、列車のひとり旅を楽しんでいる。車窓を眺めてぼんやりしている時間が、日頃身に着けた虚飾を消し去るのか、旅先の人から気軽に声をかけられる。...

鳥取へ旅した時も、いつものようにホテルを決めるとすぐ街へ出て、夜はどの店に入ろうかと見まわしながら歩く。盛り場から外れてポツンとある古びた居酒屋が、気を惹く。...

その居酒屋は広く、古びたカウンターが年月を語る。7、8人いた客から離れて座る。寒い日だったので、熱燗を注文した。名も知らぬ地酒が、心地よく喉を通り過ぎる。...

店主が私の前にやって来て、「夕暮れ前に店の当たりを歩いてただろう」と言う。どうして知っているのかと問うと、「見慣れぬ県外者が、歩いてきたから」と言う。...

県外者と呼ばれたのは初めてだ等と考えていると、店主が私の前に銚子を一本置いていく。「頼んでいないよ」と告げると、カウンターの客からの差入れだという。...

そちらへ向かって「有難う」と礼を言うと、少し酔いが回っている年配の男性が、「鳥取に初めて来て、この店を選んだのは目が高い」と褒めてくれた。...

しばらく経つと彼は私に、「鳥取にはいいバーもあるから、案内する」と強引に誘う。...

彼が連れて行ったのは、こじんまりした雰囲気の良いバーだった。その夜、私はしたたかに酔った。ホテルにどうやって帰ったか、記憶がない。...

私にとってひとり旅は、景観や産物を楽しむだけでなく、純な人たちとの出会いの場ともなっている。 前田 哲太郎

八女茶全体のさらなるブランド化に向けて

～「八女伝統本玉露」の世界ブランド化をけん引役として～

第18回

お正月ですから、ちょっと「大袈裟に見える表題」についてお伝えします。本紙昨年2月号で、「八女伝統本玉露」が、お茶では国内唯一、国による産地銘柄の保護を受けることになったことをお伝えしましたが、その最大活用版といったところです。...

この取り組みに拍車がかかったのは、平成28年度に八女市が八女茶全体のブランド化のため、まず八女伝統本玉露のブランド化を推進しようと国から「地方創生加速化交付金事業」(事業費：約5千万円)の大型資金を獲得したことによります。この事業の実行部隊として、「八女伝統本玉露」を管理運営している「八女伝統本玉露推進協議会」に新たな組織として「事業推進部会」を設置しました。...

しかし、実際には、世界的企画力と高度なネットワークが必要です。そのために、外資系広告会社(株)BBDO J WESTの小柳俊郎メディア局長、広告企画会社の(株)kodona代表取締役CEOの中矢誠一氏などの会社と契約しています。既に彼らは動いており9月に北海道函館市で行われた「第6回世界料理学会」でミシュラン一つ星レス...



第6回世界料理学会

角館の紅葉の映える武家屋敷落ちる葉っぱに雪もまじりて友を待つすすきコスモス風に生け栗柿さんまの料理をしつつ阿蘇の山に灰は降れども群生のススキは揺れてモズの高鳴くすすきの穂頬にあつれば秋風が我が身のうちを通りすぎゆく立冬を過ぎて野山の枯れすすき綿毛となりて風に吹かれるみかん狩りの人さんざめきたる丘の上今は芒の揺れいりばかりナツメロに聴く森繁の枯れすすき古い昭和を思い出させる朝露に光り輝くすすきの穂大草原に秋は深まる秋風に白き芒の揺れるさま阿蘇のやまなみこの目で見たし

鶴 隆治郎 樋口愛子 野中裕政 桜木敦子 田中たつじ 井上 精 橋本泰州 中島睦美 松尾ミサキ

トランオーナー大橋直誉氏が「お茶と料理のペアリング」で「八女茶」のすばらしさを発表し、早速、東京等のシェフから大きな反響がありました。...

また、11月に福岡市東区のザ・ルイガンス スパリゾートで行われた「DREAM DUSK」(夢の夕暮れ時)では、本田直之氏(企業家にして、累計280万部を超える著者。近年は世界中で活躍する日本人シェフを支援)が行う、国内トップシェフ5人が共演するディナー(会費3万円：130人限定。東京からわざわざ来た人が半数)で八女伝統本玉露を味わって頂きました。...

今後、東京で商談会を行うほか、ニューヨークのメディアや料理関係者に「八女茶」の世界を堪能してもらうレセプションを開催する予定です。...

これらの取り組みについては、1月17日(火)に上陽町農業活性化センターで行われる「平成28年度福岡県茶業共進会褒章授与式並びに生産者大会」において、小柳俊郎メディア局長や中矢誠一CEOなどが直接、約70分間語るようになっておりますので、1年目の活動がわかると思います。...

JA関係者・茶業部会、茶商、八女市、県関係、県茶連で組織する「八女伝統本玉露推進協議会」では、彼らと時々情報交換しますが、「八女茶の価値や世界観は世界的なブランド」にできると断言しています。...

生産者大会講演会は14時50分からです。お近くのJAに出席のご連絡を頂き、どうぞお越してください。...

福岡県茶生産組合連合会事務局長 仁田原 寿一

クラッシー文芸

■八女紫苑句会

水枯れて白秋生家やつるべ井戸 松延みさと 秋深し逝く人送るノクターン 松崎伸子 登り来て霧の幕引く仁田峠 牛島景子 これもダメ気付きしよりの懐手 堤 多鶴子 蔓引いて庭木の呪縛解き放つ 中川原篤子

■陸会

若かりし母りんごの皮の切れざりき 松尾貞義 見納めや十一月のスパームーン 大坪栄子 浅漬や朝餉の卓に糖香る 城戸和子 小春日や畑仲間のお隣りさん 穴見ミキエ 渡り鳥寄りつ離れつ点となり 伊藤幸子 ふれて見る手にまったりとつるし柿 大田真紗子 松尾真喜

■ひろかわ俳句会

うすれゆく母の記憶や里の秋 中村良郎 五葉舞ひ七葉乱舞の落葉かな 田川義巳 溪流に浮き沈みする落葉かな 原口あつ美 対岸の穂芒ゆるる船だまり 美座時朗 奥寺やGパンの僧落葉焚く 水本辰次 山下の落葉踏む音軽やかに 山下次男 落葉散る子孫途絶えし墓佬し 青木佳代子 落ち葉して池にさざ波立ちにけり 一瀬砂智子

■八女川柳会

宿下駄の落葉ふみつつ湯を巡る 酒井 司 急勾配けもの道なり柿落ち葉 松延朝美 散歩道音も十色に落葉踏む 野中勝美 薄紅葉眼下に渡る大吊橋

■立花短歌会

お陰様今年も妻と雑煮餅 溝田よしみ 安達 昇